

<今日の説教のポイント ルカによる福音書1章1～25節>

待降節はクリスマスに心から感謝できるための準備の期間です。今年ルカ福音書の記事からその準備をしていきましょう。

①(1-4節) 為政者とは？ 福音の喜びを共にしたいと願う相手！

ルカは、この世の有力者テオフィロに自分の書いた福音書を献呈しました。今日までキリスト者はこの世の権力者から迫害を受ける歴史を重ねて来ましたから、ともすれば彼らを初めから警戒して見がちです。しかし、彼らもキリストの福音を受ける大事な対象です。今の時代も問題ある為政者が多いですが、神様の前の罪深さでは私達も同じです。この世の為政者に真の福音が伝わる時に世界は平和に向かうでしょう。全ての人々への伝道が託されているのです。

②(5-25節) この話は何？ 神様のなさり方があるということ！

この個所をキリストの誕生についてかと思って読み出すと、そうではなかったことに驚いた記憶があります。のちに登場するバプテスマのヨハネのことであると知って納得しましたが、このことから別の大事なことを教えられました。それは、神様には神様のなさり方があるのであって、私の思うことを神様に押し付けてはならないということです。バプテスマのヨハネを備えられたのは神様のなさり方であり、そこには私達のための神様の思いやりが込められていました。私たちの人生においても、この恵みに富む「神様のなさり方」をいつも思いながら生きる者になりたいと思います。

③(18-20節) 神様の罰は罰で終わらず、恵みでもある！

そして、この「神様のなさり方」を信じるのが、ザカリアとエリサベトにも求められたのです、「天使ガブリエルによって語られたことを信じるように」と。しかし、ザカリアは信じられず「しるし」を求め、口が利けなくされました。彼の不信仰に対する罰ですが、同時に、求めた「しるし」が与えられたとも言えます。「罰」は、神様の約束成就に向けて、彼が信じ抜くために与えられた「恵み」でもあったのです！ 子が与えられたことを恵みと考えるのはまだこの世的です。子(ヨハネ)はまた若くして取り去られるからです。信仰から与えられる恵みはもっと深い恵みなのです！